

併し一旦道理が明になつてからは、更に拘泥するの必要はない。道理が明になつても矢張り拘泥して停滞して居るといふことになる、即ちそれが僻念である。即ち正當な注意は修養して何處までも發達させねばならぬが、僻念を去る能はずして、一所に何日まで停滞して居る様子は、修養上大に避けて行かねばならぬ事である。

(心理學通俗講話會講演)
大要文責記者

自己活動の原則に就いて

和田 實

子供と云ふものは自ら働く爲めに益伶俐になり、益丈夫になつて、所謂、發達を遂げるものであると云ふことは自己活動の原則と云つて幼児教育上實に大切な理窟であるが、物は凡べて過ぎたるは及ばざるに如かずで、兎角一方に足り過ぎて困るのである。此自己活動の原則なども、頗る重大

なる原則には違ひないが、之を奉ずる人の心々に因つて、或は飛んでもない取り違ひがないとも限らぬ。殊にフレーベルの云つた言葉にも「子供の生活と云ふものは自我を發現することより外にない。彼の生活は種々の材料を以て自己の内心の力と云ふものを顯はすことより他にないのである」と云ふことがあるので、世の多くの幼児教育者は子供が何等かの發表的活動をすることを喜んで、積木、色板、豆、粘土など種々の材料を興へて、頻りと彼等の工夫や細工を奨励して居る。勿論、是等は奨励すべき筋のものではあるが、併し翻つて、果して是のみで幼児教育と云ふものが完きものであるか何うかと云ふことを一考して見ると其處に、多少戒めねばならぬ點の存在して居る様に思はれる。

元來フレーベルは十八世紀奮風一洗の時代を受續いで、盛に新思想の横溢し始めたる十九世紀の中國に生れたが爲めに、其教育上の意見も自ら中世

紀に於ける人爲の注入主義の教育を排して、頗る自然主義を主張したもので、其「人の教育」の中にも「教育の目的とする所は、子供の内心に澤山智識を注入して行くよりは寧ろ内心から多く出させることではなければならぬ。吾人は實に子供を發達させ教育するとは云ふものゝ實際は子供を閉鎖し注入しつゝある。彼等の心を開發し、其意志を發達させて居ると云ふよりは寧ろ之を鑄造にかかつて居ると云ふ可きである」と云ふ様なことを云つて、舊來の注入的教育を嘲けて居る。フレibelの主義を賛成して斯かる思想を受け續いで居る人は自然、唯々子供を働かせ、工夫させ創造させることで其教育は出來上るものとのみ、思ひ込むで居るのは誠に無理もないことである。従つて、從來の幼稚園が、ヤレ積木だの、ヤレ織紙だの、ヤレ縫取、ヤレ貼付と工夫と細工を無暗に強いたり。或は紙と鉛筆で、ヤレ書け、ソレ書けと責めかけて居つたのは、寧ろ怪しむ可きことでは

ないのである。否、自己活動が幼児教育上の大原則である以上は是等の仕事は決して悪いことではない。吾人とても決して之等の仕事の價値を輕んずるとか、或は之等の仕事を幼児教育上から排斥しやうとかするものではない。併しながら、是等のみで幼児教育は果して完成し得るや否やと云ふことになる。我輩大に疑なき能はずである。成る程、工夫とか細工とか描畫的發表とか云ふことは自己活動の眞髓たるものには相違ないが、併し、自己活動と云ふものは單に是丈のものであらうか。是が吾人の大に疑はんと欲する所のものである。種子のない手品は遣かへぬと云ふことがあるが、如何に子供が發表することを好むとても、果して種子のないものを創造するであらうか、子供が電車を積み汽車を並べるのは、果して子供の空虚なる腦髓から忽焉として生れ出たのであらうか、其他豆細工する所のものでも、粘土で作る所のものでも果して、子供は見もし聞きもしなかつたもの

を、不意に作り出すのであらうか。云ふ迄もなく是等のものは皆一度子供の経験内に捕へられたもので、現に子供の脳中に活躍しつゝある所のものであるに相違ない。して見ると、フレーベルの所謂「自己を活動せしめよ」と云ふことも單に内心の活動を具體的事物として發表せしめよとのみ解釋しないで更に一步を遡つて

一、自己をして先づ適當なる印象（觀念）を得しめよ、

二、而して徐ろに之を具體的事物に發表せしめよ、

と解釋したのである。單に自己活動と云ふときには兎角第二の意味にのみ解釋されて、頓と第一の段階を閉却するの通弊がある。假令フレーベルが、此點を充分に考慮しなかつたとは云へ夫れは時世が必要を認めなかつた爲めとして、後の斯業を繼ぐもの迄等しく之を輕んじてはなるまいと思ふ。

實際一つ子供を引續いて一二年觀察して見ると云ふと彼等が如何に收得して然して後に之を發表するかと云ふ前後相照應する所の關係が實に著しく認められるものである。子供の發表には種々の形式がある。然るに其形式たるや、何れも自己の夫れ以前に收得したる形式に因るもので、決して因る所なく、基く所なき遇然のものではないのである。子供の言語を覺ゆる具合を注意して觀察して見ると此前後の關係は一層能く理解することが出来る。二才位の子供が始めて言語を操る迄には實に長く長い間、之を耳に聞き慣れて、而して後にするものである。決して今日始めて聞いて明日之を發言するものではない。凡べての動作又皆之に等しきものである。彼大きな子供が、今見たばかりの摸範を直に真似ることが出来るからとて、幼兒も之と同様であると考へたら飛んでもない間違である。又別の方面から子供の遊戯を觀察して見ると云ふと、子供は成る程、細工や工夫を喜んで居

る。種々な材料を自己の自由に取扱ふことに因つて、或ものを作り上げることを楽しみとして居るが之と共に一方には新奇な経験を歓迎し新智識の輸入に向つて非常なる興味を持つて居るものである。是は少しく子供と一所に生活したものが、常に驚く所のものである。

以上の諸事實を總合して考へて見ると子供の自己活動と云ふものは發表的創造的に働くと共に大に收得的方面にも働くものであると云はねばならぬ既に、自己活動には此兩方面があり、而して其發表的活動が、大に收得的活動に負ふ所あるものとしたならば、幼児教育者は、一方に、従来の幼稚園恩物が、大に勉めた子供の發表的方面に注意すると、同時に、他方には、如何なるものを、收得させて遣る可きか、如何なる経験を待させて遣る可きか、如何なる事物を見聞させ可きかと云ふことも大に考へねばなるまいと思ふ。是は我輩が初めに來る可き保育事項の最も重要なものとして

彼の觀察及實驗を特に奨勵する所以である。或は觀察たの實驗などと云ふと庶物教授即ち理科教授でもするもの、様に取る人があるが飛んでもないことである。吾人の云ふ所の觀察や實驗はそんな狭いものではない。吾人の所謂觀察實驗とは觀察的遊戯實驗的の遊戯を意味するので、頗る楽しみに満ちたものを云ふのである。子供が靜かに居られぬ位に乗り出して來る所のものである。そして其材料としても單に博物的事物ばかりではない。早い話が大きい子供の體操や唱歌を參觀させたり。或は六ヶしい讀本の教授を見物したり或は大工の働きや鍛冶屋の工場を見に行つたり。或は先生の書畫を物する所や母上のお仕事する所などを拜見したりするのも此中である。是等のものが子供には非常な興味を以て迎へられると共に後日の模倣的發表の材料となつたり、自己練習の形式となつて、つまるところ其子供の將來を形づくる要素となるものであるから、幼児教育者は如何に是

等の材料を精選すべしかに就いて大に考慮しなればなるまい。然るに世の多くの幼稚園に於ては

會々觀察又は實驗をするかと思へば遣り過ぎて理科的教授様の問答などをしたたり、然もなければ單

に發表的材料と徒に高尚な模範とを押し付けて、仕事を強制したりして居るのが多い。誠に、子供

の爲めに可哀相なことである。併し、兒童研究に熱心なる世の保姆諸君は遠からずして、此蒙を啓

いて、大に幼兒の幸福の爲めに盡さるゝであらう吾人は速に斯る日の來らんことを望むものである。

要するに幼兒をして充分に活動せしめんとするには彼等をして先づ收得的受領的經驗的觀察的に活動せしめて、感官と筋肉とを求心的に練習せ

しめ、而して徐ろに自由に且充分に之を外部に向つて發表せしむる様努めねばならぬ。斯くしてこ

を始めて、教育は直觀より始めなければならぬと主張したベスタロツチの主意にも叶ふ譯で、而

して又自己活動を以て教育の唯一原則としたフレ

ベルの本旨にも副ふ譯である。

小兒の傳染病に就いて(二)

醫學士 唐澤充徳

風 疹

前の二つに能く似て居りまして、子供が罹つてさう危険で無いのは風疹、又は「かざはな」。是は大抵數へ年の二つから十位の子供に多い傳染病であつて、やはり紅い。猩紅熱のモウ少し色の薄いやうな小さい發疹物が全身に出て來る、是は猩紅熱と誤つて大變に大騒ぎをやることがありますけれど、この方は通常三十八九度位の熱が一日位しか出ない。其の日の發疹物が出ると二日目には無くなるから、一遍は吃驚しますが、すぐ判然します。且此かざはなの方はさう危険なもので無い。猩紅熱と區別するのもやはり一方は發疹物が長く續くが、風疹は短い爲めに直ぐ診斷が出来ます。兎に